

平成 30 年度愛媛県生活習慣病予防協議会の開催結果

- 1 開催日時 平成 30 年 9 月 3 日(月)19:00~21:00
- 2 開催場所 愛媛県医師会館 4 階会議室
- 3 出席者 委員 34 名 (欠席 3 名)
参考人 1 名
事務局 13 名
- 4 傍聴等 取材 1 社 (愛媛新聞社)
- 5 協議会の内容 (全部公開)

(1) 新委員紹介

前年度協議会以降、新たに就任した委員 5 名と参考人 1 名を紹介。

(2) 会長選出

委員互選により、愛媛県医師会会長 村上委員が会長に選出された。

(3) 会長職務代理者及び部会員の指名

会長から、日浅委員を会長職務代理者に指名した。また、各部会員を指名した。

(4) 議 事

① 平成 29 年度事業報告について

事務局から、平成 29 年度に実施した協議会、講習会、肺がん部会実地調査について報告し、了承を得られた。

② 平成 30 年度事業計画について

事務局から、平成 30 年度の事業計画として、講習会は循環器等疾患部会、がん登録部会を除く 6 部会において実施すること、実地調査は子宮がん部会において実施することを説明し、了承を得られた。

③ がん検診実施状況等について

事務局から、平成 29 年度に各資料で実施された各種がん検診の実施状況の概要を説明した。

④ 愛媛県がん対策推進計画について、がん検診のあり方に関する検討会について、全国がん登録について

事務局から、愛媛県がん対策推進計画及びがん検診のあり方に関する検討会、全国がん登録について説明した。

6 各部会の内容 (協議会終了後開催。がん登録部会は部会長及び副部会長の選出のみ)

(1) 各部会の部会長の選任について

各部会において、次のとおり選出された。

部会名	部会長	副部会長
消化器がん部会	水上 祐治 (再任)	三木 優子 (再任)
子宮がん部会	横山 幹文 (再任)	廣瀬 浩美 (再任)
肺がん部会	望月 輝一 (再任)	森高 智典 (再任)
乳がん部会	佐川 庸 (新任)	高橋 三奈 (新任)
前立腺がん部会	雑賀 隆史 (再任)	橋根 勝義 (再任)
肝がん部会	日浅 陽一 (再任)	大野 尚文 (再任)

循環器疾患等部会	斉藤 功 (再任)	村上 博 (再任)
がん登録部会	日浅 陽一 (新任)	雑賀 隆史 (新任)

(2) 検診機関実地調査について

子宮がん部会において、検診機関を対象とした実施調査を以下のとおり実施することとなった。

部会名	実施時期	調査対象
子宮がん部会	H30年11月～ H31年2月頃	愛媛県総合保健協会 愛媛県厚生農業協同組合連合会

(3) 生活習慣病予防対策講習会について

講習会を愛媛県医師会へ委託して実施にあたり、各部会において次のとおり提案があった。(詳細は、別途相談のうえ決定する。)

部会名	時期・内容等
消化器がん部会	H31年2月～3月に実施。詳細は別途協議。
子宮がん部会	HPV検査の研究報告他を3月に実施。詳細は別途協議。
肺がん部会	H31年1月～3月に胸部X線検査の「岡山方式」について実施。日程は別途調整。
乳がん部会	H31年3月に「高濃度乳房に対する取組みと今後の方向性について」実施。詳細は別途協議。
前立腺がん部会	泌尿器科医会の会議と併せて実施予定。詳細は今後部会で協議のうえ決定
肝がん部会	日程を含め、今後部会で協議のうえ決定

(4) 検診結果・事業評価その他の事項について

各部会において、検診結果・事業評価その他の事項について、次のとおり意見があった。

部会	委員の主な意見・協議事項等
消化器がん部会	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセス指標で、胃がん検診のがん発見率は全国を上回っているが、大腸がん検診のがん発見率は許容値は上回っているものの、全国を下回っている。 <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に著名な先生がよいだろう。31年2月～3月の土曜日を候補日とし、できる限り早めに日程を固める。 <p>【がん検診受診率の算定法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町の住民健診には、職域など各保険者の受診者も存在するが、国保被保険者をどのように把握するのか。市町から問い合わせなどはないのか。 ・がん検診受診者の国保被保険者の確認をどのように行うか、はっきりと決まっていない市もある。 <p>→今回の算定法の変更は、28年度の国の地域保健・健康増進事業報告の改</p>

	<p>正に合わせたものであり、国保被保険者の把握方法については、各市町で検討が進められていると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国保被保険者のみがクローズアップされるようになると、せっかく市町が職域の被保険者も含めて受診勧奨しているにも関わらず、国保以外の受診者が減ってしまうのではないか。 <p>【胃内視鏡検査について】</p> <p>(問) 対策型の検診として、医療機関での個別検診を実施する場合、精度管理など一市町では難しいため、県内医療機関を取りまとめてもらえると、導入がスムーズになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に県単位で実施しているところはほとんどない。多くが市町村単位で実施しており、処理能力が高い県庁所在地とその周辺の地域のみでしか実施できないであろう。 <p>【胃部エックス線検査の対象年齢の上限について】</p> <p>(問) 胃がん検診では誤嚥する事例も見受けられる。問診では詳細な確認は実施されているが、それでも誤嚥が生じている。検診対象年齢の上限は定められないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何よりも受診の際、受診者はどういった方なのか、健康状況はどうかなど問診によりしっかりと把握することが重要。検診機関もリーフレットなどを用いて、受診者から十分に聞き取りを行うことが必要。 ・個人差などもある。 ・市町の立場からは、せっかく住民が集団検診に来てくれたのに、問診の内容で受診ができないというのは伝えにくい。できれば、偶発症などのおそれがある対象者は、一律に受診できない基準を決めてくれた方がありがたい。 <p>【精密検査実施医療機関届出の追加について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の追加については、特に問題ない。
子宮がん部会	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山市の妊婦健診子宮頸がん検診結果等が含まれているのに、他の市町はできていないというのは、妊婦健診の精度管理ができていないということだろう。全国では成人がん検診と妊婦健診結果を合わせる流れもあり、松山市以外の市町ができていない理由を確認すべきである。 ・受診率が低い市町の理由を分析し、アプローチすれば県の受診率向上につながるのではないか。 <p>【精密検査実施医療機関等届出実施要領】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改正案の内容については問題ないが、記載内容を修正したい。 <p>→事務局で修正案を作成し、後日、委員に提示する。</p> <p>【実地調査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月から2月の間で実施することとし、事務局と日程調整する。 <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診率のいい市町担当者に講演してもらいたいのではないか。 ・HPV検査の性能評価に関する研究については、研修会で報告いただき

	<p>たい。</p> <p>【がん検診受診率の算定法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国同一の基準で算定することなので、異議はない。 <p>【子宮頸がん検診のクーポン事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国、広域での啓発が必要である。 <p>【HPV検査の性能評価に関する研究について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内約3万人を対象に、検診機関協力の下、研究協力の同意が得られた者のうち、検診で要精検と判定された者にHPV検査を実施する。特異度の高さから、不要な検査を避けるために検査方法の評価を行うための研究である。
<p>肺 が ん 部 会</p>	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺がん検診の受診率は、目標の50%を超えており、精検受診率も良い傾向である。 <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・31年1月から3月の間に、胸部X線検査の「岡山方式」について実施する。日程は森高委員、望月委員が講師と調整する。 <p>【がん検診受診率の算定法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国同一基準で比較できることはいいが、県内のこれまでの推移も比較するため、参考として従来の算定方法もあればよいのではないか。 <p>【健康増進法の一部改正について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙可能な場所が少なくなれば喫煙率も下がり、肺がんの数も減るであろう。
<p>乳 が ん 部 会</p>	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診率の低い市町は、自己負担を無料化にしていないことが原因か。 ・自己負担を無料化した市町においては、一時的に受診率は上がるものの、その後下がっており、無料化は一定の人には効果あるが、そもそも受診しない人に対しては大きな効果は期待できない。受診率が高い地域は、保健師等からの声掛けの影響も大きいのではないか。 ・受診率向上については、さらに検討を進める必要がある。 <p>【精密検査実施医療機関等届出実施要領について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精密検査実施医療機関等届出について、日本乳癌学会等が定める基準を参考に見直してはどうか。 ・平成26年度に実施したアンケート調査の再調査を行うなどにより現在の状況を把握し、委員の意見を聴きながら届出基準の見直しを検討していきたい。 <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月に「高濃度乳房に対する取組みと今後の方向性について」の内容で準備を進めていきたい。

	<p>【がん検診受診率の算定法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年比較ができなくなるという意見もあるが、平成30年度をスタートに考えるのであればよい。これからは全国比較が可能となる。 <p>【乳がん検診の結果票について】</p> <p>(問) 結果票の「所見」について、非対称を「限局性非対称」かそうでないかを分けた方がいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式の見直しの機会があれば、修正してもよいのではないか。 <p>【乳がん精検施設からの良性所見情報発行について】(佐川委員提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンモグラフィーを1シーズンに3回撮る者もいるなど、検診機関が異なると比較読影ができない。不要な精密検査を防ぐため、良性所見情報の発行について検討していきたい。
前立腺がん部会	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の費用が低いと、受診率は上がるのか。 ・自己負担無料だからといって受診率が高いとは限らないが、検診費用が高い市町よりかは、低い市町の方が比較的受診率が高い。 ・欧米と同様、八幡浜市などは検診対象者を55～69歳としているが、欧米基準がすべて正しいわけではない。年齢上限をなくしないと、本当に見つけなければならない人のがんが見つけれない恐れがある。 <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容は例年どおりで、3月9日の実施を考えている。 <p>【がん検診受診率の算定法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診率の算定法の変更については、特に異議はない。
肝がん部会	<p>【検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B型では大洲市、C型では鬼北町の陽性率が高くなっているが、例年高いのか。 <p>→ 昨年は、B型、C型とも伊予市が高かった。また、人口が少ない町は、陽性者がいると陽性率が高くなる傾向がある。</p> <p>【講習会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、B型肝炎ウイルス治療薬(核酸アナログ製剤)の副作用が少ないものが開発され、薬剤変更をどうするのかなど疑義が多いため、B型の講習会としてはどうか。 ・日程を確認し、後日事務局に連絡する。 <p>【精密検査実施医師届出の追加について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に意見なし。 <p>【肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業(新規)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定医療機関の選定については手上げ方式。説明会は9～10月中に開催予定。認定協議会は肝炎の認定審査会を代用し、疑義が生じた際等、必要に応じて開催することです承。 ・指定医療機関が、患者へ制度説明を怠ったことによる、指定医療機関への罰則はあるのか。

	<p>→協力いただきたい指定医療機関の役割である。特に罰則はなし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の住民税は、フォローアップ事業対象者の住民税と同じか。 <p>→フォローアップ事業より収入が少ない人が対象となると想定される。非課税世帯が中心となるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎助成と肝がん重度肝硬変助成を併用した場合、自己負担額は合算されるのか。 <p>→肝炎対策特別促進事業と肝がん重度肝硬変事業の併用については、現在、国で協議されており、今後、示される予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者は何人を想定しているのか。 <p>→国からの試算に基づき、本県では約 120 人としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の参加は強制か。 <p>→ 手上げ方式として任意である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝疾患診療連携拠点病院、専門医療機関は当該事業に協力したい。 <p>【肝炎治療特別促進事業の要綱改正について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が示した要綱（案）で問題ない。
循環器疾患等部会	<p>【ビッグデータ活用県民健康づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国保と協会けんぽのデータを統合して分析する事業だが、それぞれ精度管理の面で異なる部分があり、精度を整えるのが今後の課題である。協会けんぽのデータは、現在は現 20 市町の分析だが、できれば旧 70 市町村単位での分析を進めたい。 ・20 市町単位でのマッピングによる色分けだと、人口が少ない割に面積が広い市町は視覚的にイメージが強調されやすい。地域ごとの見える化により、地域特性や課題等を県民に見せられればよい。 ・愛媛県の男性の健康寿命がワースト 2 位というのは改善が必要である。 ・健康寿命については、本人の主観によるアンケート調査が基になっており、他県比較には留意が必要。正直に回答する県民性による部分もあるのではないか。 ・埼玉県の和光市は、要介護認定の数が低い、運動量やスポーツに結び付けて取り組んでいると聞いている。 ・静岡県のマッピングを見ると、県西部に比べ、東部の結果が悪いようだ。静岡県では西側に医師が多いことが関係しているのかもしれない。 ・愛媛県でも南予と中予を比較すると同じような傾向があり、南予の方が肥満が多い。